

不登校を考える学習会

(小郡市教育委員会 人権・同和教育課主催)

報告 打ち合わせ 9月28日(水)18時～ 参加6名 人権・同和教育課1名
振返り 10月14日(水)19時～ 参加3名 人権・同和教育課1名

第2回学習会

とき 10月9日(土) 14:00～17:00

ところ 小郡市文化会館 小ホール

講師 木村素也さん(不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長)

参加者 44名



【テーマ】不登校支援の輪を広げよう

- 1部 木村さん講演
- 2部 不登校経験者(大学4年生)への質疑応答
- 3部 交流会

【感想】

「学校行かなくてもいいよ」この言葉は親の立場なら口にするのをためらう言葉だ。小中学校の義務教育において、親世代であれば学校に行くのは当たり前。しかし愛する我が子が、朝布団の中で石のように顔をこわばらせたり、トイレにこもったりする姿を目にした時、この子にとって学校とはどんな風に映っていたのか。7年経った今でも当時を思うと胸が締め付けられる。

木村先生の話で、度々使われていた「自尊感情」できないことより、できることに目を向けて。そして失敗するかもしれないが、子ども本人に決めさせて否定せずに寄り添い、話し合う。なかなか難しい。しかし、そうする事で「自尊感情」は

高まっていく。そこに自分に合った「環境」を見つけれられた時行動できるようになる。生き生きとした子どもの顔が見れるのは、その2つが揃った時なんだと、先生の優しい語りの中で「確かに」胸の中にストーンと落ちてきた。

かつて当事者だった大学生の方も色々な質問に答えて下さり、家族から言われて嬉しかった言葉は「無理して学校行かなくていいよ」だった。ドキッ。まだ心から言えない時は言わなくていいよ、子どもは親の本心は分かってしまうから…と言って下さった木村先生。とても心が軽くなる講演会&交流会だった。(K. O)

【参加者アンケートより】

○大学生の方の実体験にもとづくお話はとてもためになりました。家族に言われなくなかったことは、まさに今、毎日子どもに言ってしまうことでした。まずは、親が考え方を変えなければと思います。わかってはいますが、難しいです。(保護者)

○「不登校に不利益にならない社会を」と木村先生がおっしゃっておられましたが、本当にそろそろ150年前(←明治の学制発布)からのこの学校システムを変えないといけないと思いました。ようやく、校則を変える傾向が増えています。良いことです。みんなの一人ひとりの声が届く(経済産業省、文部科学省などの)政治が変わると思います。(一般)

小郡サークル会の活動報告

○不登校になるのは、本人の問題とばかり思っていた。環境を整えていくこと、自尊感情を高めていくことの大切さを学べた。(地域)

○対人能力がないから不登校になるのではなく、不登校になった結果、自尊感情が低くなり、対人能力がなくなるとい話が一番印象に残っています。その子に原因がないとわかっているにもかかわらず無意識にそういう言動をしていないか自分を振り返っていきたいです。当事者の方からも貴重な話を聴くことができありがたかったです。ありがとうございました。(学校関係)

本学習会の内容報告を小郡市ホームページで閲覧できます。

小郡市ホームページ>学ぶ・スポーツ・人権>不登校を考える学習会 の手順でお進みください。

木村素也さんの本

不登校支援の輪をつなげよう

～「不登校生の保護者会」を通して学んだこと～

[学びリンク㈱ 紹介ページ抜粋]

「どうにかして来させてください」という学校。

「学校には行けない・・・」という子ども。

「学校に行きなさい!」という保護者。

これでは三者三様、自分の都合を述べるばかりで、いつまでも苦しいままです。お互いの立場を知り、考え方を変えれば、新しい解決策が見えてきます。

本書では元中学校校長の著者だから見える、学校と家庭、親と子の適切な関係作りを示します。不登校家庭の具体的な困りポイントを解決します!

すぐに役に立つノウハウと家族の気持ちが楽になる考え方を示します。

講演会で感じる
木村さんの温かいお人柄が
詰まった1冊です。

